

# 市内編さん窓

(24)

今回は結びとして、鎌倉

幕府成立後の城氏の動向と、

十三世紀初頭における城長

茂や新津四郎らが蜂起した

背景を探つてみたいと思ひ

ますか。その前に、前回書

及し残した問題を若干述べ

ておきます。

それは、鎌倉期に平賀氏

が領有したであろう金津保

地頭職は、平

安永期に金津

保に設定され

ていたいかなる所職を継承

したものかということです。

確実な史料はなく、以下ま

つたくの推測になりますが、

金津保の一部である「新津」

を姓とした新津四郎が、金

津保を代表する領主で、

たとは考えられず、おそらく

新津四郎を伴類として從

える城氏が、この保の保司

職を領掌していたと思われ

ます。しかし、鎌倉期に平

賀氏が領有した地頭職は、

城氏の頃の保司職の内容そ

のものではなく、その一部

分であり、国衙領主権を在

地で施行する保司が別個に

存在したものと思われます。

さて、内乱期に平氏に与

れていたものと思われます。

罰を許され、御家人の列に

したため、囚人として鎌倉

加わったようです。

しかし、正治元年(一一九九)正月に頼朝が死んだ

後、頼朝の寵臣として権勢

を握った源頼朝が他の、

有力富豪たちに排斥され、

僧官任が招かれます。定任

は頼朝の隠依を受ける者で、

したが、以前には城長茂と

も信仰によつて結ばれてい

ました。頼朝に参會した定

任は、執拗に長茂の免罪と

彼を御家人の列に加えても

らいたい旨願い出します。そ

こで、頼朝は長茂を御所に

連れてくることを許します

が、頼朝の面前に連れてこ

られた長茂は、頼朝のいる

京都で挙兵した直

接的原因は、彼の庇護者で、

あつた源頼朝の前年正月

に、城長茂が新津四郎らを

率いて、京都で挙兵した直

ちに至つて、鎌倉におけ

る長茂の政治的環境は激変

したものと思われます。

翌年(一一九〇)正月、十六日か

ら七月三日までに受講料を添

えて消防本部(☎ 210-175)

へ

申しつみ…六月二十六日か

とところ…市民会館

□受講料…危険物安全協会会員は三千円、その他の受講者は六千円

□とき…七月九日、十一日

□受講料…危険物取扱者試験の受験者を対象に、受験準備講習会が開かれます。

乙種四類の危険物取扱者試験の受験者を対象に、受験準備講習会が開かれます。

□とき…七月九日、十一日

□受講料…危険物安全協会会員は三千円などくわしいこと

は、新津税務署総務課(☎ 210-175)へおたずねください。

□受験資格…昭和三十二年四月一日から三十八年四月一日までに生まれた男子で、大学

(短期大学を除きます)を卒業、または昭和六十年三月三十一

日までに卒業見込みの人

までに生まれた男子で、大学

(短期大学を除きます)を卒業、または昭和六十年三月三十一